

本市ごみ処理の状況

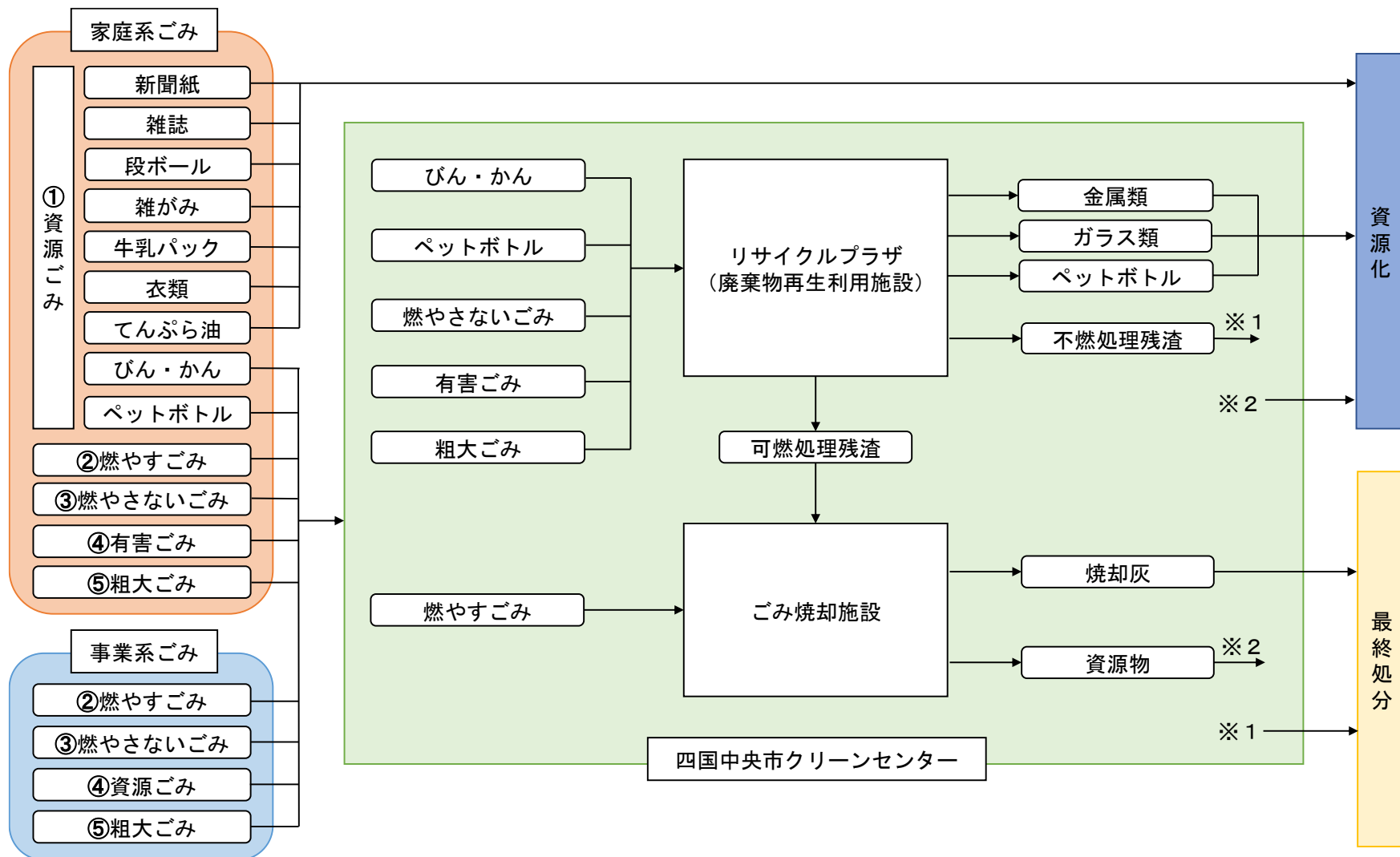
第1回四国中央市ごみ処理施設整備検討委員会
令和5年6月30日

目次

- (1) ごみの分別区分・処理フロー
- (2) ごみ排出量（家庭系・事業系）の推移
- (3) 資源化・埋立処分の状況
- (4) 本市のごみ処理に係る課題

(1) ごみの分別区分・処理フロー

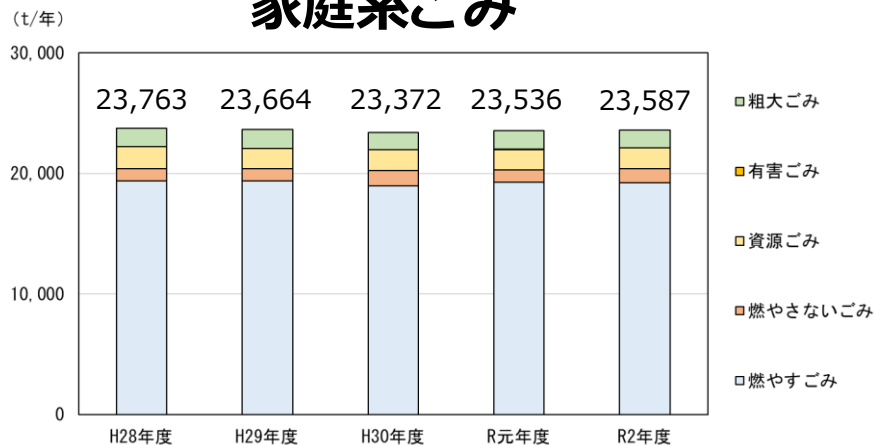
- ごみは5分類の大区分に沿って分別している。
- 処理は本市クリーンセンターで実施している。



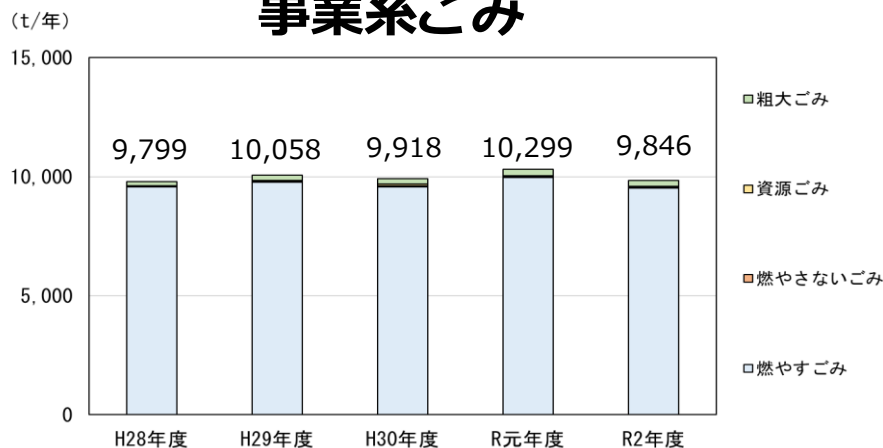
(2) ごみ排出量(家庭系・事業系)の推移

- 家庭・事業系ともにごみ減量が進んでいません。
- ほとんどのごみが「燃やすごみ」となっている。

家庭系ごみ



事業系ごみ

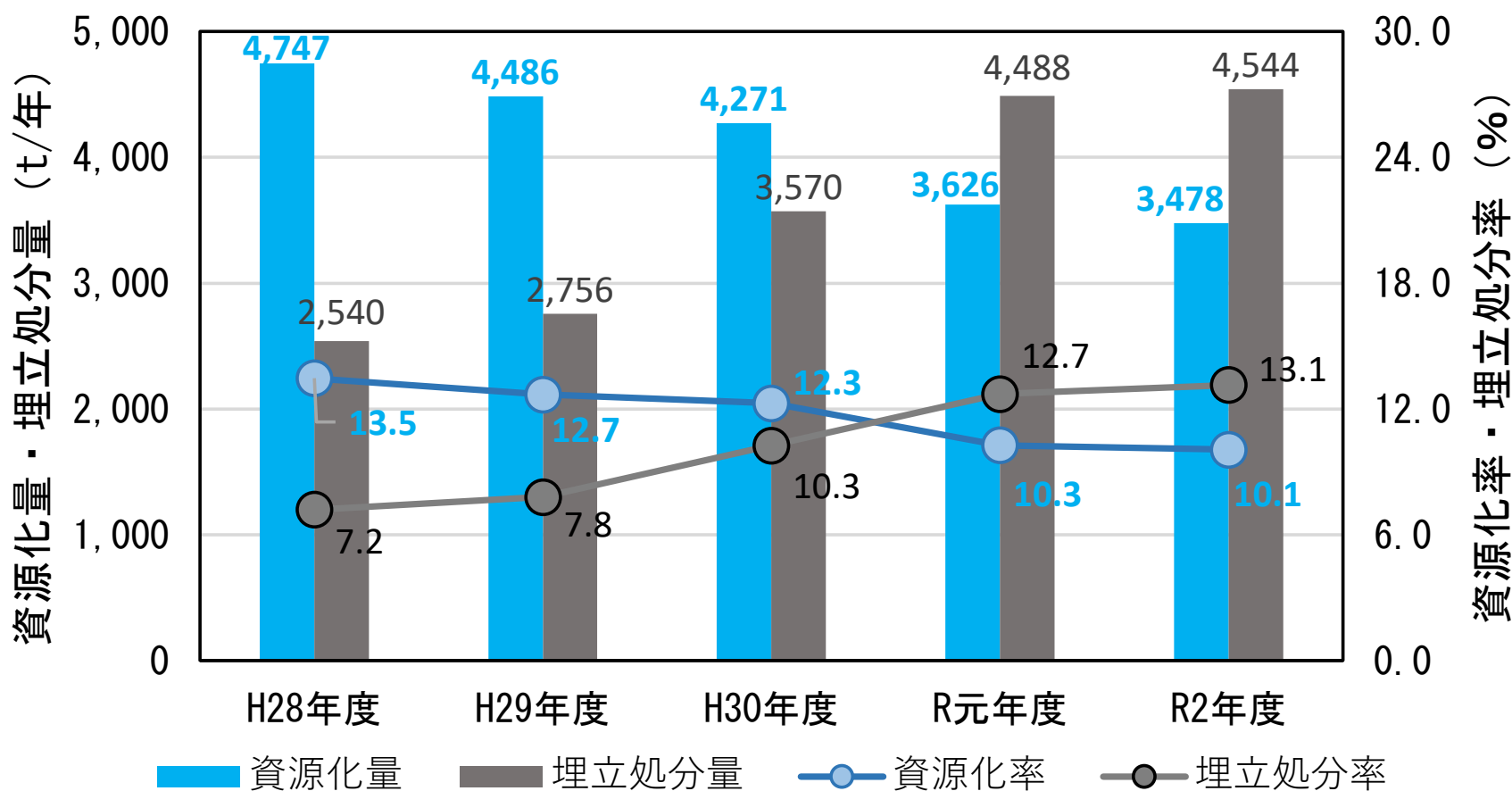


単位：t/年

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
ごみ総排出量	35,259	35,335	34,816	35,302	34,571
家庭系ごみ	23,763	23,664	23,372	23,536	23,587
燃やすごみ	19,367	19,374	18,982	19,253	19,213
燃やさないごみ	1,041	1,032	1,271	1,039	1,180
資源ごみ	1,794	1,662	1,694	1,689	1,721
有害ごみ	16	19	16	16	17
粗大ごみ	1,545	1,577	1,409	1,539	1,456
事業系ごみ	9,799	10,058	9,918	10,299	9,846
燃やすごみ	9,575	9,765	9,566	9,957	9,513
燃やさないごみ	18	29	47	27	28
資源ごみ	23	50	77	65	52
粗大ごみ	183	214	228	250	253

(3) 資源化・埋立処分の状況

- 資源化量・資源化率 : 減少傾向
- 埋立処分量・埋立処分率 : 増加傾向



(4) 本市のごみ処理に係る課題

■ 排出抑制

- ・ 家庭系及び事業系ともにごみ排出量が横ばい
- ・ 有料化等の取組み等、抜本的な施策や分別区分の変更等を伴わない限り排出減が困難

■ 資源化率

- ・ 国目標となる27%の達成には分別区分やごみ処理システムの変更等が必須

■ 埋立処分

- ・ 処分費削減のためにも埋立処分量の削減が必要

- ① 継続して排出される燃やすごみの処理
- ② リサイクル率の増加
- ③ 埋立処分量の減少

①～③を解消するためのごみ処理が必要